経営戦略 Strategic Management

第7回 (Session Four – 1st half) (事業戦略-研究) SCP vs RBV

> 慶応義塾大学SFC 総合政策学部准教授 琴坂将広

両者の議論の出発点は、異なるところに存在する

SCP vs RBV:議論の背景

経営環境の変化

- 情報技術の発達により 情報の非対称性が改善される
- これにより取引効率化 が進み、持続的競争優 位の獲得が困難となる

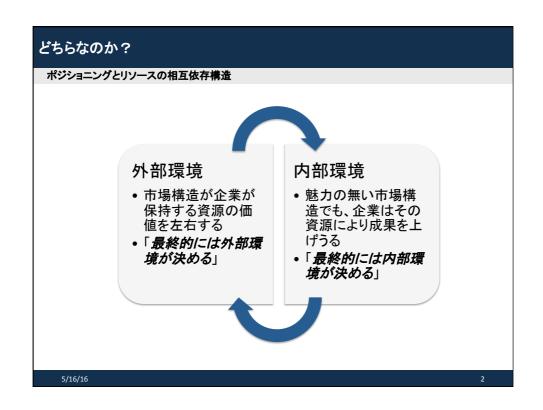
SCPの視点

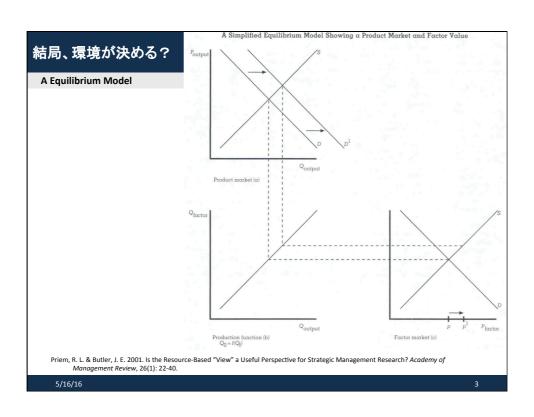
- 持続可能な競争優位の源泉は、コストを最小 化するオペレーション効率向上と、戦略的ポ ジショニングにある
- RBVでいうリソースとは、オペレーション効率 をあげ、コストを削減するものに過ぎない

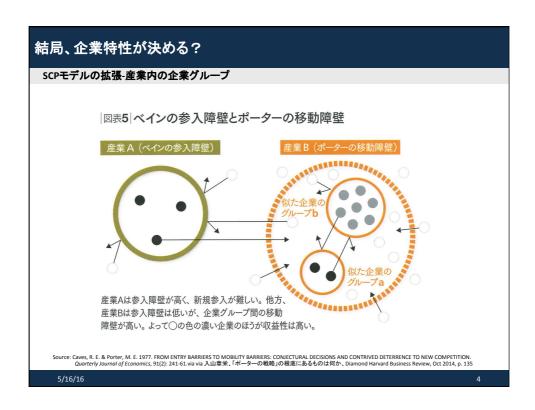
RBVの視点

- 同質化の進展で価値を失う資源もあるが、模倣困難な資源の優位性がさらに高まる
- 競争構造上有利な環境は市場参加を促し、 平均利潤を押し下げる。したがって、業界構 造よりも各企業の内部資源が差分となる

.6/16







産業要因は2割という分析結果は、これと符合する

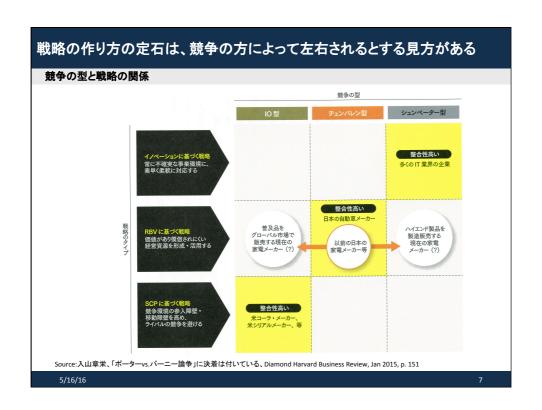
マイケル・ポーターらによる産業効果と企業効果の検証

Table 3. Comparison of COV results (percent of total variance attributed to various effects)

•			*			
	(1)	(2)	(3) Rumelt model	(4)	(5)	
	Schmalensee ^b (as reported)		on McGahan and Porter manufacturing data	Rumelt model on all McGahan and Porter data	McGahan and Porter ^a	
No. of observations	1775	6932	18,298	58,132	58,132	
Year (σ_{ν}^2)						
Industry (σ_{α}^2)	N/A	N/A	0.40	0.37	2.39	
Corporate parent (σ_B^2)	19.59	8.32	7.20	17.32	18.68	
Segment specific (σ_{Φ}^2)	N/A	0.80	2.05	6.96	4.33	
Business unit (σ_{ϕ}^2)	N/A	N/A	N/A	N/A	31.71	
Corpparind.	N/A	46.37	33.79*	29.57*	N/A	
covariance $(2C_{\alpha\beta})$	-0.62	N/A	-1.42	-5.37	-5.51	
Market share	0.62	N/A	N/A	N/A	N/A	
Industry-year	N/A	7.84	4.44	4.39	N/A	
MODEL	19.59	63.33	46.46	54.23	51.60	
Error	80.41	36.87 ^d	53.54	46.77	48.40	
TOTAL (σ_r^2)	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	

Source: McGahan, A. M. & Porter, M. E. 1997. How Much Does Industry Matter, Really? Strategic Management Journal, 18: 15-30.

どのような競争をして	いるのか?		
Table 1			
A Summary of the Ch Concepts of Competiti		Organization, Chamberlinia	n, and Schumpeterian
gue lebora de distribuia	IO Competition	Chamberlinian Competition	Schumpeterian Competition
Unit of Analysis	industry	industry/firm	industry/economy
Core Concepts	structure conduct performance	monopolistic competition: competition between heterogeneous firms	the engine of creative destruction
Micro-Economic Authors	Bain, 1956 Bain, 1968 Mason, 1939	Chamberlin, 1933 Robinson, 1933	Schumpeter, 1939 Schumpeter, 1950 Nelson & Winter, 1982
	Porter, 1980	Kotler, 1976	Lippman & Rumelt, 198
Micro-Economic Authors	conduct performance Bain, 1956 Bain, 1968 Mason, 1939	competition between heterogeneous firms Chamberlin, 1933 Robinson, 1933	Schumpeter, 1939 Schumpeter, 1950 Nelson & Winter, 19



新興国市場の発展により、非市場戦略の認識と、その体系化が進む

現代の競争の型は、どう広がるか?

	Market Arena					Nonmarket A	rena	
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
Competition concept	10 competition	Chamberlinian competition	Schumpeterian competition	Governance	10 competition	Chamberlinian competition	Schumpeterian competition	Governance
Unit of analysis	Industry	Industry/firm	Industry/economy	Transaction	Industry/economy	Industry/firm	Industry/economy	Stakeholder relationship network
Core concepts	Structure Conduct Performance	Monopolistic competition	The engine of creative destruction	Discriminating alignment	Checks and balances Interest group competition	Quid pro quo Corruption	Coercion Legitimacy	Mutual interest and dependence
Disciplinary foundations	Bain (1956) Bain (1968) Mason (1939) Caves and Porter (1977)	Chamberlain (1933) Robinson (1933) Penrose (1959)	Schumpeter (1934) Schumpeter (1950) Nelson and Winter (1982)	Coase (1937)	North (1990) McCubbins, Noll, and Weingast (1987) Bueno de Mesquita et al. (1999) Tsebelis (1995, 1999, 2002) Schwartz (1992, 1994)	Black (1948) Olson (1965) Buchanan and Tullock (1962)	Kingdon (1984) Baumgartner and Jones (1993) Gamson and Meyer (1996) Benford and Snow (2000) Tarrow (1988, 1996, 2005)	Homans (1958) Gouldner (1960) Blau (1964) Thibout and Walker (1975) Lind and Taylor (1988) Scott (2010)
Strategy theorists	Porter (1980)	Barney (1986) Wernerfelt (1984) Proholad and Hamel (1990) Grant (1996)	Teece et al. (1997)	Williamson (1975, 1985, 1996)	Baron (1999) Henisz (2000) Baron and Diermeier (2007) Henisz and Zelner (2006) Holburn and Vanden Bergh (2007) Siegel (2007, 2012) Martin and Salomon (2010)	Henisz and Williamson (1999) Henisz and Delios (2001) Fisman (2001) Foccio (2006) Morck (2000) Holburn and Zelner (2010)	Henisz und Zelner (2005)	Henisz et al. (2012)

Source: Henisz, W. J. & Zeiner, B. A. 2012. Strategy and Competition in the Market and Nonmarket Arenas. The Academy of Management Perspectives, 26(3): 40-51.

5/16/16

8

組織の概念がかわり、外部と内部の境目が不明瞭となる

近代企業の成長と経営組織の変遷

 近代企業の誕生
 大企業化の時代
 選択と集中の時代
 新たな組織形態の成長

 年代
 19世紀後半~ 20世紀半ば~ 20世紀後半~ 21世紀前半~

経営環境 ・市場化 ・全国化 ・国際化 ・グローバル化

・経済の成長 ・経営の専門化 ・金融市場の発達 ・情報技術の発展

組織形態 ・小規模中心 ・大規模志向 ・大規模志向 ・大規模&小規模
・一部大規模化 ・多角化 ・専門特化 ・外部資源の活用
・垂直統合 ・水平統合 ・分散協調

経営目標 ・大規模経営の ・売上の拡大 ・競争力最大化 ・変化への対応 効率化 ・組織の成長 ・株主価値 ・効率的な事業成長

Source: 琴坂将広、外部資源活用による事業成長の加速、日本政策金融公庫調査月報、2015 Nov. p. 39

5/16/16

9

内部環境と外部環境の境目は、複層的な構造を持ち始める

企業境界の再定義 - 所有、統治、協業の複層的な境界を理解する

協業の境界

(Association Boundary)

統治の境界

(Governance Boundary)

所有の境界

(Ownership Boundary)

- •供給業者
- ・中核事業
 ・提携企業
 ・関連団体

 ・中核機能
 ・委託企業
 ・同業他社・

 ・中核社員
 ・契約社員
 ・顧客
- •協力企業

 - •同業他社

複層的な組織境界の活用にむけて

- 社内と社外に明確な境界を設定しない
- 自社を多様な組織と個人と結びつける
- 所有、統治、協業の境界を設定する
 - 所有する資源は出来うる限り絞り込む
 - ・ 統治する資源には支配力を行使する
 - ・ 協業する組織と個人を活用する

Source: 琴坂将広、外部資源活用による事業成長の加速、日本政策金融公庫調査月報、2015 Nov. p. 41

5/16/16

内部と外部が明確であることを前提とした組織は、転換を迫られる

外部経営資源活用のために求められる経営システムの変革

の仕組み設計

既存組織の課題

- 社内ですでに保持する人員、 設備、資金を前提条件とする
- ・ 部署間の連携が限られ、社外 の資源の情報が企画開発部隊 に共有されていない
- 自社組織への 社外資源取り組み
- 各種契約、目標設定と管理のプ _ ロセスが社内中心に業務を行う 前提で設計運用されている
- 外部の多様な経営資源を柔軟 に活用する下地が存在しない
- 目標の共有と つながりの醸成
- ・ 社内の属人的なつながりに過 度に依存した組織文化の形成
- ・ 社内の一体意識の形成は進む 物の、社外の利害関係者との 非公式なつながりが薄い

求められる変化

- ・ 社内にすでに保持する人員、設 備、資金を前提条件とせず、事 業のあるべき姿や実現したい商 品やサービスを前提として、必要 な資源を社内外から探索する
- 社外の多様な経営資源を積極活 用することを前提とし、そのリス クを最小化しながらもその可能 性を最大化できる業務プロセス を整備する
- 社内外の壁を越え、付加価値創 造の価値連鎖をともに担う共同 体としての目標を共有し一体感 を醸成する

Source: 琴坂将広、外部資源活用による事業成長の加速、日本政策金融公庫調査月報、2015 Nov. p. 42

(事業戦略-研究) SCP vs RBV

まとめ

- SCPとRBVは、相互に依存関係にある説明の体系
- 外部環境を重視するのか、内部環境を重視するのかは、競争の型によって異なる
- 競争の型は、非市場戦略の登場により、より多面的に捉えられつつある
- 外部と内部の対立は、外部と内部の境界があやふやとなる現代では、時代遅れ
- 複層的な境界を前提とした戦略検討が求められる時代となった

後半は、4-2 (事業戦略-実務)事業戦略を検討するを扱う

/16/16